



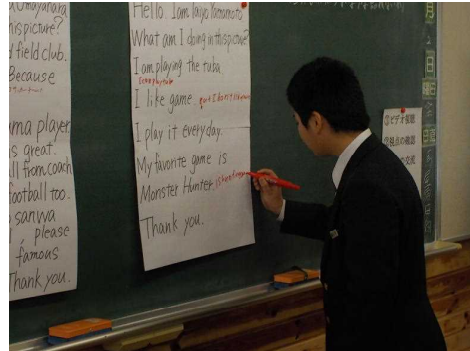
# 三和中学校研究だより

平成30年2月5日発行

2月2日（金）『学びの変革』パイロット校事業 実践指定校

## 第8回授業研究会

1年英語「日本にやってくるバンダバーグ・クリスチャンカレッジ（BCC）の生徒の不安を解消しよう」より



### 今回の授業・研究協議から1年間を振り返る

- (1) 単元構想を練る
  - ①ゴールの明確化⇒逆向き設計で単元を考える
  - ②付けたい「資質・能力」を明示⇒今回は、単元観に記載
  - ③教科の本質をはずさない⇒現在進行形, canやand・butを使用（間違いは見逃さない）
  - ④他教科・領域とのつながりを入れる⇒今回は、総合的な学習の時間とのつながり
  - ⑤学びの必然性のある場面設定（学習者基点の単元構想）
- (2) 教科の本質
  - 「教科のカッコよさ」にこだわる⇒その教科特有の「見方・考え方」  
英語を使う場面を増やす
- (3) 「資質・能力」
  - 学校全体として付けたい「資質・能力」の共有化⇒この授業でどういう力が付くか
  - 生徒が授業で付いた「資質・能力」を語れる⇒「学びの自覚」
- (4) パフォーマンス課題
  - 本物をゴールにし、主体的な学びへ
- (5) 事前の準備（授業での仕掛け）
  - 生徒が主体的に動くためには、事前の指導が不可欠
- (6) カリキュラム・マネジメントの視点
  - 単元の組み換えや教科横断的・全体的（行事等）な視点で考える  
⇒「相手意識」はいろいろな場面で大切
- (7) 学校力「チーム三和中」
  - 指導案作り・模擬授業・資料準備等による校内体制の教育研究の組織力

### 今年度中にお願いすること

- ・各教科・領域で「課題発見・解決学習」の単元を入れたシラバスの作成【今月中】
- ・各学年の総合的な学習の時間を中心とした年間指導計画の作成【2/15(木)締切】